

女性展望

WOMEN'S PERSPECTIVE

第45回総選挙特集

2

概説

政権交代へ

女性議員も54人はじめて1割超える

全女性候補者の

選挙結果

読者オピニオン

選挙結果を見て

言いたいこと

伊藤美代子 河野基子 小松満貴子 時實達枝 野人美津恵
福田輝子 真下淑恵 松橋雅子 森陽子 山城紀子 渡辺信子

インタビュー

立候補辞退の

猪口邦子前衆院議員

「女性差別撤廃条約実施状況
第6回日本政府報告審査」を
傍聴して

吉田容子（弁護士・日弁連同性の平等に関する委員会副委員長）



鳩山新総理が指名された衆議院本会議 2009.9.16

10
OCT・2009

立候補辞退の猪口邦子前衆院議員

4年前、小泉首相の出馬要請により自民党の東京ブロック比例代表名簿1位で初当選を果たした猪口邦子氏。今回は一転、公示前日発表の名簿で24位におかれ、立候補を辞退した。選挙期間中の8月25日、国会から程近いマンションの一室に準備されていた選挙事務所まで話を聞いた。

聞き手：本誌発行人山口みつ子

■衆院選立候補辞退のいきさつ

——今回の衆院選で立候補を辞退されましたが、経緯をお話してください。

猪口 自民党の東京ブロック比例代表として公認を受けたわけですが、残念ながら党執行部から公示直前に非常に厳しい決定が言い渡されました。選挙は闘いである以上、当初から党執行部の指示に従って行動するという立場を貫いてきました。比例名簿順位が24位ということは明らかに当選圏外であり、国会から引き下がってこれというのを意味しません。事実上出馬を断念せざるを得ません

でした。

8月17日の記者会見のあとは、静岡7区の片山さつき候補の応援弁士として駆けつけました。片山さんの応援演説をしながら、自分自身も立ち直っていったと思います。その日以来、当選同期の女性を含め候補者の応援に毎日駆け回っています。

——ということは、政界と縁を切るわけではないのですか。

猪口 総選挙が終わるまでやり抜きます。その後のことについては、学者に一旦戻り、執筆に専念するという選択もあります。ただ、政治の道を諦めるなどという意見も凄まじいほどあり、どこにいようと、どの立場であろうと、国政に戻り今までの主張を貫いてほしいと言われます。

■4年間の議員としての実績

——前回、2005年の郵政選挙では比例名簿の1位で当選されました。

学者から軍縮大使、政治家に転身して永田町政治をしっかり見てこられた4年間、ご自分の特色を生かした活動はできましたか。

猪口 まず初代の少子化・男女共同参画担当大臣に任命され、大臣職の中で初めて包括的に子育て支援、少子化対策を打ち出しました。

そして、全国各知事との対等な関係における特定政策分野の対話を大臣として最初にやりました。これは国民の本当のニーズを吸い上げる時に有効な手法でした。今後続く大臣たちにも参考にしたいですね。自分が政治学者として考え抜いた一つの方法論であり、ものすごい情熱で行動した例だったと思います。

また、超党派のクラスター爆弾禁止推進議員連盟をつくりました。当時政府はクラスター弾禁止条約に反対の立場で、議員も及び腰の人が多かった。でもこの条約の交渉に積極

的に参加し、締結にもつていくには、どうしても議連が必要でした。私が事務局長に就任し、河野洋平衆議院議長が議長となり、数カ月後には政府の方針が180度転換して、昨年12月3日、条約に署名しました。

——専門が生かされましたね。

猪口 軍縮大使の経験を生かして自分が主体的、積極的に動いた初めての本格的な仕事でした。国会は年功序列の党内秩序があり、世襲でないということは、それだけで仕事をするのに時間がかかる。また、1期生は主たる仕事はやらせてもらえない。キャリアなんてなかなか認めてもらえない世界です。1期生が何かやるには100倍の情熱が必要です。例えば超党派の議連をつくる時には、各事務所の根回しを自分でやりました。こういう時に国際政治学者の手法が生きます。

——最初の話に戻りますが、それだけ実績があれば、今回も比例代表の上位、あるいは小選挙区で公認されると思っていますか。

猪口 小選挙区は、党本部から示唆されればやる決意でした。しかし、都内には現職ばかりで、空いている選挙区がなかった。だから私がどこか



猪口邦子氏

ら立ちたいとは言えませんでした。

東京以外でも闘う決意はありました
が、党執行部の指示を重視しました。

——民主党が政権を取るといふ空気があつて、小選挙区の話も、比例代表上位の話もない。これでは諦めると言われているようなものですね。

猪口 名簿24位ということは、猪口という政治家、議会人は必要ないと言われたも同然で、その瞬間は相当苦しかったですよ。そこが私の人間としての勝負だったと思います。永田町における人間失格を言い渡され、新幹線に飛び乗って、片山さんや茨城7区の永岡桂子さんの支援に向かった。私を必要とする人がいる限り、自分も歩み続けようという決意です。片山さんの出陣式で、私も必ず国政に戻ると思わず宣言してしまいました。女性政治家同士で助け合うことが大事です。

——郵政選挙で自民党の女性当選者は26人でした。その女性間でネットワークはあつたのですか。

猪口 そのうち初当選した16人で16人の会、「いちろく会」をつくりました。私はその代表幹事です。皆さん、立場も思想も違いましたが、助け合つていこうと。会の名簿をどな

たかに引き継ぎたいと思つています。

——小泉チルドレンと表現されましたが、あれは一種のポジティブ・アクションだと思ひました。

猪口 そうです。大きな、しかも静かなるポジティブ・アクションですよ。女性議員を増やそうと思つた時には、タイミングとか戦略を考えなければならぬ。小泉純一郎元首相の掲げる改革の中には紛れもなく男女平等改革が入つていました。そして、少子化・男女共同参画担当の大任職を設置した。その任を受けた私としては、総理の男女平等改革の役割を歴史的に演じなければならぬという使命感がありました。

■地方議会から挑戦を

——10%前後と低迷している女性議員を増やす方策は？

猪口 まず地域の女性たちが、市区町村議会から、自分でも可能だと信じて出ることですね。多くの先進国で女性議員の数は、多い順に市区町村議会、次に都道府県あるいは州議会、そして国会の順になっています。ところが日本だけ逆ピラミッドになっている。しかし、女性の政治参画と民主主義の男女平等が本当に深ま

つていくためには、生活や人々の考えに一番身近な市区町村の議会から女性が半数くらい出るべきです。

そこでよく考えてほしい。何票あつたら議員に当選できるのかと。地域によつては2000票くらいで当選できる。これは、まず自分の地域の小中学校の同級生、先輩・後輩、あるいは趣味の会やスポーツの仲間、その周りの友達を大事にしたらい数です。そして、その人たちが政治にどんな不満を持っているかなどを聞く。最初は身近な人に支えてもらう。身近な人に支えてもらえない人が、遠くの、会つたこともない人から1票を取ることではできません。そういう発想で始めてほしいですね。

また、男性議員が女性議員や女性支援者を手足として使おうとしても、使い返すこともできる。使つてもらつたら、「じゃあこの地域では待機児童がこんなに多いのだから、先生この公約を入れてください」と、進言することもできます。政治の世界ですから、貸し借りの関係で、女性もその辺は小賢しくやつていかなきゃ。でも基本は票数であり、市民は皆主権者です。一人ひとりが主権在民の主役、それが自分の同級生であ

り、隣の住民でありと、この視点をもつて出発し、その主権者を代表し、代理するのは自分でいいのかと、常に考えながら闘つていくのです。

——今後のプランを。

猪口 幸い私は初代の男女共同参画の専任大臣でした。これは自分のライフワークとして推進できるし、歴史の事実としても、そこに一つのレングが積みまれ、第二次基本計画で、ジェンダーの表現と考え方を維持してきた。今後でも在野で、内実を高めながらレングを積み続けます。

——民間から大臣になることと、議員から大臣になることとは重みが違いますか。

猪口 違いますね。私がやりたいのは議席を持つこと。議員であれば、有権者を代表して、やれることはたくさんあります。それをいつの日か国政に戻つてやり抜きたいと思ひます。そのためには、猪口は国政に戻るべきという大きな声が市民社会からあり、それを見て使ひ道がありうだと幹部政治家たちが思えば、再び私の道は開かれるでしょう。

——時期を見て再チャレンジされるとのこと。ご活躍ください。